

定時制高校の授業成立を目指して

——教科書をノートにして——

奈良井 瑞 恵

はじめに

定時制高校・かつては働きながら学ぶ勤勉な学生たちが通う場所であったその学校は、現在確実に変貌している。中学校で問題を起こして全日制高校には入れなかった者、高校での不適応をおこし、編入・転入をした者。まさに受け皿的な高校である。いわゆる生徒指導問題校となり、さらに、近年は単位制や統廃合・修制の導入の波にさらされて、目の前の生徒に四苦八苦し、学校全体が一体どこへ行くか分からない状況に立たされている。現在の高校に赴任が決まったとき、私は多少不安には感じたが前校で三年教職を経験した後でもあったので「ま、なんとかなるでしょ」などとお気楽に考えてでかけたのであった。が、それは甘かった。一クラス多くて十五名ほどの学級が四つである。その授業にこれほどまでに苦労するとは。授業は全く成立しない、教科書は持ってきていない、ノートはもちらん作っていないし、授業はまるで聞かなかった。はじめ

てはいつた教師を試す気もあつたらうが、男子も女子もこぞつておしゃべりするか、歩きまわるかであった。

その高校でもう四年目がたとうとしている。県の規定で言えば、異動の年である。現在、三つのクラスを受け持っているが、二クラスは、ノートを作るようになり、一斉授業をしている。生徒の態度ははたから見ればまだまだであるが、時にいい発言が飛び出したり、集中しているなど思える授業も出来るようになった。(学期に一度程度ですが)学校全体としてもとにかく椅子に座って授業を受ける生徒が大勢を占めるようになった。その原因は一つには生徒の質が変わってきたこともあるだろう。(先生にはガンをつけてくるが後輩に対しては面倒見の良い、良い意味でも悪い意味でもリーダーシップのある生徒は姿を消し、嫌に子供っぽい生徒たちが増えた。定時制に通う生徒が社会で働く大人であるという時代はもうすでに終わってしまった。今考えればその時代が完全に終わる時期に私は出くわしたのではないかと思えてくる。)だが、私も確実に変わって

いったと思える。その変化をこれを機会に振り返ってみてみる。

教科書・一斉授業を見直すまで

一年目、どうしても授業に参加しない生徒たちに少しでも参加させるため、私は毎回プリントを作り、その作業を元に授業を組み立てた。四十分授業の三十分はプリントを埋めていく時間であり、私は机間巡視をしてヒントを与えたり、やらない生徒をどうにかしてやるように声をかけた。生徒の興味・関心に添うような授業をと心掛けて、自主教材も導入した。教科書はあってもなきがごとしであった。

二年目は生徒も慣れ、新しく入ってきた一年生に関しては、教科書を使い一斉授業もする様になったが、三年と四年に関してはプリント学習は続いていた。いったんノートも作らない、教科書も持つてこないという習慣ができてしまえばそれを同じ教師が覆すのは本当に難しい。ほんの小さな譲歩が積もり積もって授業のできない環境にしていくのだということをお私自身も持った気がする。とはいえ、二年目は一年目のようなことはなかった。このまま、作業させていくばかりの？授業が続いていくかにも思えた。

その年私は四年生を担任していた。「とにかくこの子たちは高校の卒業の資格が取りたいから来ているのだからその邪魔にならないようにしたい。」そう思って二年間担任した

生徒の卒業の日を迎えたそのとき、仕事をしながら何とか四年間もかかって卒業した彼等を前に、はじめて後悔した。何にも教えてこなかったことに気付いた。「生徒の興味・関心にそう授業」「自分で考えさせる授業」といつつ私がやって来たのは、ただ生徒に迎合した、一斉授業で生徒に拒否されることを恐れた、作業させるばかりのそんな授業ではなかったのか。

高校を卒業する意味を考えた。進学のためでも、就職のためでもなく、高校を卒業したということはどういうことなのか。国語の力とは何なのか。今でもその答えは出ない。ただ、生徒が「やったぞ」と思ってくれることはないかと考えた。そして、一年から四年までの流れを感じさせる国語の授業ができれば良いと思った。

結局私が思ったのは教科書での一斉授業だった。二年間で一冊の教科書をすべてやり切ること。全国の高校生が、あたりまえに学習する教材に触れる事も大切な気がした。「これを教える」「これが国語の力だ」といえない私に何かよりどころが欲しかった。そして、自分だけであるプリントよりも少人数の学級の友人の意見を聞ける一斉授業こそが必要だと思った。

次にあげた実践は三年目から三年生に行ったものである。現在四年生で継続中である。この生徒たちは私がこの高校に入ったとき入学し、今年卒業となる生徒たちである。この実践をまとめることで、今までの授業を振り返り、反省

し今一度、修正する機会にしたいと思つてゐる。

△ねらい▽

- 1 教科書を二年間でとにかく一冊終える。そのことで、
 - (1) 達成感を持たせる。
 - (2) ジャンルに偏りのない系統的学力を身に付けさせる。
 - (3) いわゆる高校生らしい国語的教養を身に付けさせる。
- 2 一斉授業に取り組む。そのことで、
 - (1) 人の意見を聞くことの重要性に気付かせる。
 - (2) 自分の意見をはっきりという力を身に付けさせる。
 - (3) クラスの仲間の意見を聞き、感心したり、参考にしたりしてお互いを尊重する態度を育てる。

△期間▽

平成五年四月～平成六年三月まで

△科目▽

国語Ⅱ(週三時間のうち二時間) (一時間は漢字のプリント)

△対象生徒▽ 三年生十名(男子のみ)

△生徒の状況▽新入生入学試験ではいつてきた者が七人、後の三人は途中転入である。入試で入つたものの中にも、一旦全日制の高校に入ったもの問題行動等で退学し、新たに入学した者が四人いる。つまり、七人は一旦他校を経験しているわけで、潜在的な学力はそれほど低くないが、学習意欲に関しては全学年を通して群を抜いて低い。

また、休学をして三年から戻つてきた者が二人おり、ク

ラスのリーダー格である。その二人がやる気にならなければ、大体いつも真面目な二人のみを相手にした授業となる。だが、能力的に言えばこの真面目な二人が低く、年上の二人が高い。ということで、成績は皆低め安定となる。

いろいろな思いがあるのだから、「定時制なんか出席しとれば出れるんだらう」と言い、定時制の授業そのものを侮つているところがある。(確かに、成績で留年ということとは滅多にない。)したがって一人を除いては筆記用具、教科書、ノートは持つてこない。ただ、「漢字」については、「できないと社会に出てはすかしい」という思いを確かに持つており、一年からずっと続いている週一度の漢字プリントの日には、黙々と全員がする。また、その作業力は高い。そこで一番初めに持つてくるのは休学して出てきた二人である。

「後何回休める？」が授業中よくきかれる質問である。そのとおり、限度となる出席のぎりぎりまで彼等は休む。しかし、休みを取つておくということとはしないので、二期からは異常に出席率がよくなる。

一見ばらばらに見える彼等であるが、微妙なところで人間関係のバランスを取つてゐる。一人が休むことで授業の雰囲気が変わる。一人一人のその日の気分も大いに影響するので、その日行つてみないと雰囲気はわからない。

△方法留意点△

1 △授業前の準備△とにかく教科書が必要である。

幸い、三年生は教科書が新しくなる年である。しかし、そのまま彼等がもったところで、持って来るはずはない。ノートも今まで作った事はない。

そこで思い切つて、教科書にすべて書き込みをさせる事にした。毎回ノートを提出させるので、国語の始まりにはノート⇨教科書を私が持つていけば事は足りる。背に腹は換えられないやり方ではあるが、うまく行くと、二年間授業を終えた時自分が書き込みをした汚い教科書が一冊とにかく残るといことになる。

2 △板書計画△教科書に書き込みをさせるとい事は、おのずと、板書も変化する。生徒の教科書の板書計画と、実際の板書計画を毎回立てる事にした。

3 △教科書書き込みの約束△少ない教科書の余白になるべく分かりやすく書き込みをさせるため、次のような決まりを大まかに決めた。

・文章の右に書き込む。
・評論文等の論理的な文章については記号を大まかに設定する。

・自分が後で分かりやすい事。

4 △プリント△極力作らない。(保存が難しい)

5 △教材△教科書の教材を基本的に載っている順序で

進める。

ただ、一学期欠席が多い事に留意して、長文はなるべく、二学期以降に集める。

6 △授業△一時間ごとの目標をはっきりとしておく。
また、一斉授業での意見交換が主眼となっているので、発問を多くし、必ず全員が発表するようにする。

7 △評価△毎回教科書を提出させ、金・銀・銅の判を押し評価し、平常点に入れることにした。学校の規定で、学期の素点の100点満点中、20点が平常点、10点が出席点70点が定期考査の点数と決められており、その20点分をこの判が決めるという事にし、一番初めにはっきり説明した。

また、学期の成績が出るごとに、ノートが何点かを明示した。

指導の実際

1 教科書(ノート)の実際 資料①〜⑧参照

①初めの授業・板書と教科書書き込みの実際：どこでもそうだと思うが、初めにする『約束』というのが定時制にとつては特に大切なルールとなる。「私はこれからこういうやり方でやるよ」とはじめに言っておきさえすれば、ある程度それに従ってくれるものでもある。逆に言えば、途中

で、「これからはこうする」と方針をころころ変えても生徒は全く付いてこないということでもある。

②生徒の教科書・漢詩：イメージを言わせる発問がしやすい「詩」と「教師に付いてこない」と訳が分からない教材である漢文」という組み合わせは、非常にやりやすかった。しかし、書き込みのしすぎで後で見ても全然分からなくなってしまう。

③詩の授業：一つの言葉に深く切込んでいく教材は書き込みをする場合、適切な教材だと思える。

④論説文の授業：長文を構造的にとらえることに難あり。構造を本文に書き込みをしてとらえることはなかなか難しい。横に書き込みをしようとしたがわりすぎた。

⑤プリントの利用：前の授業の失敗を元に、背に腹はかえられず使ったものだが、作業はしたものの、しかし、一問一答でしかない。

⑥漢文の授業：発問を中心にすえた授業 男子生徒の好きな歴史ものの教材ということもあって活発

⑦生徒の教科書・漢文：書下し文を別紙にしてはりつけプリントは作らないつもりだったが、このほうがかえって整理された。

⑧短歌の授業：教科書の書き込みの仕方はあえて考えずしたもの。板書計画にとらわれすぎた反省からあえてした授業。

2 授業の様子

オリエンテーションが効いたのか、すんなりと一斉授業が始まってしまった。ただ、やはり、初めは考えて発言するというよりも、私の言うとおりにノートに書いていく事に終始する事が目立った。作業は相変わらず好きである。段々慣れてくるにしたがって、発言ができるようになったが、その慣れがノートをきちんと作らない事にもつながった。「やるよ」と言ってもほとんど全員が眠りの時間という始まりもあつたが、授業が始まれば教科書とノートが目の前にあり、「今日は何ページ？」などと何人かが言いだして、大きく崩れる事はなかった。プリントで自己学習をしているときと違って、私はクラス全員に対し、叱ったりするようになった。うるさそうにでも聞いていた。(おかげで私は奈良井ばばと言われる)それでも、授業にのると、指名もしないのにそこかしこで発言が出てきて、人の発言にみんなが大笑いをするという場面もすこしばつみられるようになった。

3 結果と問題点

一年目には絶対に無理だと思っていた教科書を使った一斉授業は結果的に成立している。教師の労力のみ多く、系統性のなかったプリント自主教材学習よりも随分ましになつてきた事を実感している。(ただ、ここで言っておきたいのは、プリント学習、自主教材、自主単元が悪いと言っているわけではなく、私にそれを二年間、あるいは四年間

を見通しての力がなく、とにかくいきあたりばったりに生徒に譲歩して取り組んでしまったところが問題だったのである。それに、はっとあたりを見回してみると、国語の教科以外の科目もほとんどすべてプリント学習をしていた。教科書があり、ノートがあるという一種の型が、どれだけ授業という雰囲気を作りだしているのか、回り道をして初めて実感したかんじである。少なくとも雰囲気は確実によくなる。効果と考えることを箇条書きにすると

1 ジャンル等、系統的な流れに沿って学習できる。
2 教科書を聞くことだけで授業の雰囲気は確実にできる。

3 自分が前にどんな学習をしたかが一目瞭然である。
4 前時とのつながりがつけやすい。「前にやったよ」の確認ができ、復習できる。

5 自分の教科書という意識ができる。
つまり、教科書とノートがそこにある「形」が、授業成立に大きく役立つていくということである。

ただ、このやり方で必ず一斉授業ができるかといえませんが、そんなことはもちろんない。これは正直言えば、三年目だからやれたと思うからである。自分の高校の経験から、国語の授業というものはこういうものだと思込んで強圧的に一年目から一斉授業を始めようとするのは、生徒を無視することだとしか言いようがない。(実は1年目の私がそうだったのであるが。)めぐりめぐってから教科書と

一斉授業こそが、この生徒には必要ではないかと思ったのでつて始めたことは一年目の一斉授業と私の中では大きく違うと思っている。また、国語の授業の前に、どれだけ生徒とある関係を作れたかが実は大きな鍵であることは隠しようもない。(こんなことを書いてみると光葉会向きではないなと思う)

また、一斉授業が一番だとは私も思っていない。これを選んだことは一つには他教科の教え方のバランスが私の場合大きく影響している。プリントと机間巡視がほとんどの授業形態の中で、国語という教科だけでも一斉授業をして、いろんなことを聞いたり話したりできないかと思った。十人の仲間を大切に思っただけで、世間話や車の話じゃない話の中で、「あいつそんなことを考えてるん。」と思っただけだった。

だが、思いとは裏腹に、うまく行かないことのほうが多い。今回まとめとめてみて、改めてたくさん問題点に気付いた。一言で言えば、一斉授業・教科書にこだわりすぎているということが言えるのだが、今後の課題を箇条書きにまとめてみると、

1 長文に書き込みをするときにもっと分かりやすい工夫をすること。(ポイントのみを押えること)

2 プリントを張り付けたり、あるいは切り取ったり、「ノート」の活用を広げること。

3 論説文の構造を書き込んでいくことで分からせていく

工夫

4 わからなければ、書けない、という箇所も何か所か作った書き込み

5 板書・書き込みにうまく呼応した、発問計画に取り組むこと

6 少なくとも学期の終わりには、自分の教科書を振り返って眺めてみさせることも必要ではなかったか。あるいは、他の者の教科書を見させることも場合によっては必要かと思う。

7 一冊やり終えて真っ黒にする目標の達成を一番に考えたとき、現時間数ではなかなか難しい。定時制であることを逆手にとつて、時間配分等もつと割り切った計画を立てる。

8 評価を判ではなく、文章でなるべく書く。

9 一斉授業で分からない場合の個人的なケアを取り入れる。

10 教科書を幾つも読み研究し、生徒のレベルや興味にあつたものを採用しておくこと。

以上、まとまりのないことをつらつらと書いてきたが、今回、この原稿を見直した時点で気付いたことがあつた。それは「新しい試み」というものは、計画性のうえに立てば、ある程度の効果を發揮するということである。教科書を使った一斉授業が今できているからといって、ここで停滞したら、多分生徒は付いてこなくなるだろう。三学期に

は「こころ」が私を待っている。二段印刷のあの小さな字の隣にどんなことを書いていくのか、非常に先行き不安であるが、もう一つ進んだ工夫を考えていかななくてはならないと思つている。最後にいつも私を励ましてくれる、四年の生徒の俳句（川柳）を載せて、この稿を終わりたいと思います。

すずむしに負けじと騒ぐ四年生

夜が更けるけんちゃんふける三限目

夕焼けは赤色青色眠い時間（いろ）

奈良井ばばくそあついのに授業する

（島根県立浜田高等学校）

資料①

△オリエンテーション計画

4/14

オリエンテーション

毎回の教科書・プリント提出 ↓ 平常点

金曜は漢字

国語の力

読心・書く・話す・聞く ↓ 技術的

聞く力の重要性

情報に人により

生身の人間から直接汲み取る

知識・情報

微笑について

人は見る心を持つ

長岡弘

一人の表情が最も印象的の表情は、微笑です

田田 人間内面的感情を語らざる

人を喜ばせるには微笑を思ひ出す

微笑は印象的で不思議な作用を持つ。

作者にも、印象的な微笑の例

天狗の印象



△板書と書き込み実際

教 養案について

田田 氏

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

生

△生徒の教科書

養案について

田田 氏

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

教科書の内容を板書して、生徒が書き込むという形式は、

資料⑥ 〈漢文の授業〉

4月14日

②楚 楚人 虞 項羽 楚高 驍 漢 漢公 (劉邦)

四面楚歌

①昔年天子孫孫
 子孫孫一也 (劉邦)
 漢公 (劉邦)
 漢公 (劉邦)
 漢公 (劉邦)

4月20日

四面楚歌

項王が垓下に在りて、先夜、歌をひかんとす。
 項王、何楚人之多也。
 項王の性格に迫る。
 水、項王の性格に迫る。
 不平な意味
 報復されて
 悲憤歌
 統

力故山 竟蓋世
 時不利兮 驍不逃
 驍不逃兮 可奈何
 虞兮虞兮 奈若何
 唱和して
 左 右
 能

〔板書計画十発問計画〕

〈書き込み計画〉

②楚 楚人 虞 項羽 楚高 驍 漢 漢公 (劉邦)

四面楚歌 漢公 (劉邦)

項王軍壁垓下、兵少、食尽、漢軍及、圍之、項王、兵圍之數重、夜、漢軍四面皆楚歌、項王、乃大驚曰、漢皆已得楚乎、是何楚人之多也。

項王則夜起、飲帳中、有美人名虞、常幸從、駿馬名騶、常騎之、於是項王乃悲歌慷慨、自為詩曰、

力故山兮氣蓋世
 時不利兮驍不逃
 驍不逃兮可奈何
 虞兮虞兮奈若何

項王也

楚人 虞 項羽 楚高 驍 漢 漢公 (劉邦)

四面楚歌 漢公 (劉邦)

項王軍壁垓下、兵少、食尽、漢軍及、圍之、項王、兵圍之數重、夜、漢軍四面皆楚歌、項王、乃大驚曰、漢皆已得楚乎、是何楚人之多也。

項王則夜起、飲帳中、有美人名虞、常幸從、駿馬名騶、常騎之、於是項王乃悲歌慷慨、自為詩曰、

力故山兮氣蓋世
 時不利兮驍不逃
 驍不逃兮可奈何
 虞兮虞兮奈若何

項王也

楚人 虞 項羽 楚高 驍 漢 漢公 (劉邦)

四面楚歌 漢公 (劉邦)

